

日本医師会

# 赤ひげ賞

# 日本医療の底力再発見する場に

日本医師会と産経新聞社は平成24年度に続き、地域の医療現場で住民の健康管理や診療に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」の受賞者を選ぶ。2回目

となる今回は8月30日に選考会を開き、11月に受賞者を発表して表彰する予定。赤ひげ大賞が医師の「励み」として定着すれば、地域医療の一層の発展にも貢献しそうだ。

## 第2回 8月30日に選考会



皇太子さまご臨席のもと、行われた第1回表彰式—3月22日、東京・内幸町

### 初期診療から看とりまで関わり強く

### 献身的な診療活動に深い感銘



日本医師会会長

横倉義武氏

日本医師会は昨年、産経新聞社とともに「日本医師会 赤ひげ大賞」を創設し、5人の赤ひげ先生を表彰いたしました。受賞された先生は、地域で献身的に診療活動に従事されている、素晴らしい方々です。

す。私も医療者の最大の役割は、地域の皆さんに寄り添うことと考えています。病気の予防のための健康診断や保健指導、病気の知識を持ってもらうための勉強会と一緒にすること、などを通じて、初期診療から看とりまで、関わりをますます強くしていきます。



ジャパンワクチン社長

長野明氏

第1回の赤ひげ大賞を受賞された5人の皆様は、お一人お一人が地域住民と共に歩み、地域住民の健康を第一に考えられた診療活動を献身的に展開されて、大変感銘を覚えました。表彰式に「一緒に家族のお喜びの姿に接すると、赤ひげ大賞がスタートできて、本当に良かった」と心底感じました。

選考委員の皆様は、第1回ということもあり、種々苦勞されたかと存じます。特別協賛社として、厚く御礼申し上げます。第2回の赤ひげ大賞も、全国の多数の候補者の中から限られた数の受賞者をお選びいただくプロセスは、困難さや苦労の多いものになるだろうと拝察いたします。今後、「日本医師会 赤ひげ大賞」が、国民の皆様にとって、地域医療で活躍されている医師の代名詞的存在になることを、心よりお祈り申し上げます。

#### 日本医師会 赤ひげ大賞

【主催】日本医師会、産経新聞社  
【後援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ  
【特別協賛】ジャパンワクチン株式会社

赤ひげ大賞の名称は、山本周五郎の時代小説『赤ひげ診療譚』に由来する。江戸で貧民救済に腕をふるう医師の姿を描いた名作だ。今回の赤ひげ大賞では、北海道、三重県、和歌山県、広島県、大分県から5人の医師が選ばれ、今年3月に発表された。患者の血液検査の結果や自宅地図などのデータをタブレット型端末に集約している「IT派」、24時間態勢で氷点下20度の中でも出かける「行動派」など顔ぶれはさまざま。大きな注目を浴びた。3月22日の表彰式に臨席された皇太子殿下は、「長年の努力と取り組みの成果に心から敬意を表します」とのお言葉を述べられた。



### 女性版「赤ひげ」先生も活躍

第1回の赤ひげ大賞の受賞者は男性医師ばかりだったが、もちろん女性医師も対象だ。地域医療の現場で活躍する千葉県八千代市、「秋葉クリニック」副院長の秋葉則子さんに話を聞いた。

「結婚・出産・育児で離れた女性医師が、現場に戻れるケースはごくわずか。せつかつく技術や知識が失われるのはもったいない。秋葉さんは日本医師会が女性医師の復職を支援する女性医師バンク中央センターの「統括コーディネーター」をつとめる。

「個人の活躍が目立つというよりは、それだけ医療行政が行き届いていない」ということ。秋葉さんは、改選すべき点は多いという。たとえば、老人福祉施設への入所は、単純に申し込み順で決まっている。体調面で入所が必要な人を優先する、といった「上手な配慮がされていない」。国レベルでは、財政優先の医療改革で地域間格差が激しくなるといった弊害が目立ってきている。

### 医療改善につなげてほしい

広島県神石高原町の過疎地域で住民に寄り添った医療活動を続けてきたことを評価され、第1回「日本医師会 赤ひげ大賞」を受賞した。



「赤ひげ大賞」をきっかけに、医療の現状に気づき、根本的な改善につなげるべきだ。敬しい言葉には、そんな思いが込められている。

#### 選考委員のコメント



地道な活動 さらに重要に  
羽田信吾氏  
昭和館館長・宮内庁参与

第1回の選考に携わり、地域に根を下ろした医師の献身的な努力が住民生活の安心にとって、いかに重要かを再認識しました。地方も大都市も超高齢化の波が押し寄せている今日、地域の医療体制の整備が急務ですが、同時に、住民生活に思いを寄せ、その健康や医療の確保のために、地道に活動する医療関係者の存在はますます重要で、赤ひげ大賞がこうした活動に光を当てることによって、地域医療の充実に貢献することを願っています。



「かかりつけ医」の活躍期待  
向井千秋氏  
宇宙航空研究開発機構  
宇宙医学生物学研究室長

昨年、「赤ひげ大賞」という、地域医療の現場でがんばっている医師の方々を表彰するという趣旨の賞が創設されたことを、すばらしいと思いました。そして、選考委員として、実際に審査に参加させていただくと、いずれの先生も優秀な方が多いことがわかりました。第2回の赤ひげ大賞の実施にあたっては、住民の中心が高齢者であるような都市部の「かかりつけ医」や、女性の医師の方々にも、登場していただきたいと思っています。



ひたむきさ、高い志に感動  
山田邦子氏  
タレント

赤ひげ先生の生き方から学ぶことがたくさんあり、多くの方にこのことを伝えたいと思って、参加させていただいています。第1回で受賞された先生方は、皆さん口々に「当たり前のことをしているだけ」とおっしゃいました。なんとこの素朴でひたむきで、高い志。感動し、涙が出ました。高齢化が進むこの日本のどこかで今日も地元で根付き、過疎地などでがんばっている赤ひげ先生に、みんな「ありがとう」を言いたいです。

## 力をあわせて、未来を守る

ワクチンによる予防こそが、これからの医療の中核になる。  
ましてや感染症の予防は、ひとりを守るだけでなく、その周辺の人々、ひいては社会や、この国そのものを守ることになる。  
そう信じる私たちは、新しい時代に向かって、力強く歩み続けていきます。

